

昇任教員紹介

昇任教員

平成26年11月1日付



歯学部教授
(総合教育学系(臨床教育管理運営))

長澤 敏行 (ながさわ としゆき)

PROFILE

東北大学歯学部卒業。東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了。東京医科歯科大学歯学部附属病院医員、同大学歯学部助手、ポストフォーサイズデンタルセンター文部省在外研究員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科助教、本学歯学部准教授等を経て、教授就任。歯学博士。

平成27年3月1日付



歯学部教授
(口腔機能修復・再建学系(デジタル歯科医学))

疋田 一洋 (ひきた かずひろ)

PROFILE

北海道大学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。北海道大学歯学部附属病院医員、同大学歯学部助手、ベルギー・ルーベンソリック大学客員教授、本学個体差医療科学センター准教授等を経て教授就任。歯学博士。

Message

定年退職される先生からのメッセージ



薬学部 教授

武智 春子

昭和50年4月1日付で東日本学園大学薬学部薬品製造化学教室助手として採用していただきましたが、当時はまだ薬学部の校舎は建築中で、8月までは北大薬学部に入居させていただきながら、建物の完成を待ちかねておりました。

8月に薬学部の校舎が完成し、9月に一期生の学生さん達が、一斉に大学に入って来たときに、やっと大学の助手になれたのだという実感が湧いてきたのを覚えています。専門に在る時は、学生さんと一緒に研究をしていましたが、その指導の過程で、自分の伝えたいものを受け取ってもらえるということが、自分のやりがいにも繋がり、逆に私の方も学生さんから随分エネルギーをもらっていたような気がします。当時より今になって、改めてその時間の貴重さを感じています。

私は、薬学部に23年間在籍したのち、平成10年には薬

学部から全学教育を担う基礎教育部に異動になりました。ところが、3年後には基礎教育部が解体されて、再び薬学部の所属になり、その8年後には所属が大学教育開発センターとなり、そこから薬学部に出向する形になりました。このように在籍する部署はいろいろ変わりましたが、どこに属しても、基礎教育を担当する以上、どの学部の学生に対しても、等しく自分が教えている化学について、少しでも解って面白いと思ってもらいたくて今までやってきました。学生さんにとっては、一寸押しつけがましいような授業であったような気もしますが、どうだったでしょうか。

今改めて、多くの教職員の皆様と学生の皆さんに支えられて、この40年間を過ごして来られたと感じております。最後になりましたが、皆様に深く感謝申し上げますとともに、皆様の今後のさらなるご活躍と、本学の発展をお祈り申し上げます。



歯学部 教授

東城 庸介

本学歯学部薬理学講座に赴任して30年3ヶ月が過ぎ、この3月末で定年を迎えることになりました。思えば、あっという間の30年間でした。これまで、多くの皆様に支えられながら無事定年まで勤めることができましたこと、心から感謝申し上げます。

私は歯学部の6期生から薬理学の講義を担当してきました。ここ数年は私の薬理学を受講した卒業生の子弟が歯学部に入学するようになり、経過した年月の長さを改めて思い知らされます。学生には薬理学の面白さ、薬の作用の奥深さを伝えたいと、新しい話題や最先端の研究も織り込みながら授業を行ってききましたが、はたしてどれほど心に響く授業ができたことか。私は、今流のPCを使ったパワーポイント授業には馴染めず、昔流の板書とプリント中心の授業で押し通しました。「先生の授業は分かりやすい」「板書の内容がまとまっています、勉強しやすかった」などの学生諸君の言葉が、私にとって

は一番嬉しいことでした。

30年間の思い出は尽きません。中でも、個体差健康科学研究所の設立直後から、大野弘機所長(当時)を補佐して研究所の整備や運営に苦心したことを思い出します。平成14年度からの学術フロンティア推進事業や平成19年度からのハイテクリサーチセンター整備事業の運営に関わらせてもらい、本学の研究活動に少しは貢献できたかと思っています。

この4年間は、歯科衛生士専門学校の校長を務めさせていただきました。専任の先生方に支えられながら、そして元気な女子学生に囲まれての毎日は正直言って結構楽しかったです。歯学部を取り巻く状況は未だ厳しいですが、現在斎藤隆史歯学部長を中心に一丸となって完全復活に向け邁進しており、私も陰ながら応援させていただきます。

お世話になった皆様のご健勝と、本学の益々の発展を心からお祈りいたします。有り難うございました。



看護福祉学部 教授
石川 秀也

私は大学卒業後、北海道社会福祉協議会に10年間、北広島市高齢者総合ケアセンター聖芳園（特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど、高齢者福祉の総合施設）に19年間、それぞれ勤務させていただき、2003年4月から本学看護福祉学部臨床福祉学科教授として採用いただきました。以来12年間、お付き合いいただいた卒業生、在学学生、教職員の皆様、本当にありがとうございます。また、無知な私に貴重なご助言をくださった、数え切れないほどの社会福祉関係の施設・事業所や行政機関、教育機関の皆様、さらに素敵な関わりを下さったボランティアの方々や当事者団体などの皆様に厚く御礼申し上げます。

本学にお世話になる以前は、いくつかの大学などで非常勤講師をさせていただいてはありましたが、専任教員としての経験がなかったものですから、最初の頃は本当に大変でありました。シラバス作成、授業の準備と授業、講義資料の作成、さら

には様々な委員会や入試の仕事等々、初めてのことはばかりで先輩の教員や事務局の皆様親切に教えていただきながら、なんとか今日を迎えたというのが実感でございます。

楽しかったことは、やはり学生さんとの関わりで、学内ばかりでなく、ゼミ旅行やコンパなど、本当にたくさんの良い思い出をいただきました。今でも、ずいぶんと以前に卒業した方々との付き合いがあり、キャンプに行ったり、飲み会に参加させてもらったりと、長い付き合いになっている卒業生がいます。彼女・彼らとは、大学時代は学生と教員という関係でしたが、今では友人として、さらに社会福祉に働く同志としての関わりをさせてもらっており、これからも長い交流を図っていけたらと願っている次第です。

今後とも、本学がわが国にとって極めて有用な存在としてますます発展していくことを心から願ってやみません。

長い間、本当にありがとうございました。



心理科学部 教授
鈴木 裕子

1980年、東日本学園大学の歯学部口腔解剖第二講座に助手として赴任しました。当時、理学部の動物生理学で学位を取得したものの就職口が見つからず、研究生で居残っていたのですが、幸い採用となりホッとした記憶があります。

大学の前に今のようなJRの駅はなく、当別で降りて皆、バスで大学に通いました。ちょうど一期生が音別の教養から当別に移行してきた時でした。草創期の学生さん達は皆熱心で、年齢が近かったこともあって一緒に勉強をし、実習も一緒に居残り、お茶を楽しんだりしました。今は彼らのお子さん達が入学してきており、懐かしい名前に出会います。

また歯学部時代には1年間、シカゴのノースウェスタン大学に研究留学をさせていただき、札幌から大学までの通勤

で毎日が終わっていた私に、多少とも視野を広げる経験となり、大学には本当に感謝しております。

4年前に大学教育開発センターに異動し、心理科学部臨床心理学科に配属となりあいの里と当別を往復する日々となりました。歯学部時代の顕微鏡やマイクロームを使った研究はできなくなりましたが、配属された卒論の学生さん達に触発され、広い意味での味覚・嗅覚研究を続けることができました。また心理科学部でも、昔歯学部で教えた学生のお子さん、兄弟や姉妹が歯学部にいる学生さん達に出会うことができ、そこが私立大学のいいところと実感しております。

はや35年たちましたが、特に何事もなくこの時を迎えることができ、感謝の気持ちで一杯です。本学の益々のご発展をお祈り申し上げます。



歯学部 教授
橋本 昇

大変永い間お世話になりました。
北海道医療大学のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



薬学部 教授
豊田 栄子



薬学部 教授
渡辺 秀樹



心理科学部 准教授
柳田 寛

以上の諸先生の他、薬学部 豊田教授、渡辺教授、
心理科学部 柳田准教授が定年退職されます。
ありがとうございました。

With heartfelt thanks.